

協同

月刊 BUSINESS-LINK 中小企業連携組織活性化情報

京都府中小企業団体中央会

newsline

2022/9

令和4年度 北部地域組合代表者会議	1
特集 2022年版 小規模企業白書の概要 No3	2~3
京都ブランド・新分野開拓事業の活用事例(京都名産品協同組合)	4
令和4年度中小企業組合検定 受験対策講習会のご案内	4
京都青年中央会 京都市長表敬訪問	6
一般社団法人京都府食品産業協会 第25回京の味めぐり・技くらべ展を開催!!	6
京都経済お天気	7
令和4年度 秋の交通安全運動	8

令和4年度 北部地域組合代表者会議

8月1日(月) ホテルロイヤルヒル福知山&スパ(福知山市)において、令和4年度 北部地域組合代表者会議を3年ぶりに開催し、会員及び関係機関等からの来賓者を含め延べ110名が参加した。

本会山下信幸副会長の開会挨拶の後、福知山公立大学 地域経営学部 准教授 杉岡秀紀氏を講師にお招きし、「つながりで考える北部の地域創生」をテーマに講演会を開催した。

講演では冒頭にニューノーマルという言葉が聞かれるようになったが、はたしてこれまでの時代は本当にノーマルだったのか? という問題提起がなされ、来場者の関心を引き立たせた。

次に中小企業者の課題は近々の新型コロナ等の目先の問題に目が行きがちだが、北部地域の課題である人口問題を主体とし、若者の地域の関心度、女性の活躍等、地元の中小企業が課題解決の主役になり、小さな連携が地域経済を変えていくキッカケになるのではないかと。30年、50年、100年後の時代を生きている子供たちの時代をつくるのは今を生きる私たちではないかとの問題提起があった。

加えて、国主導の地方創生は成功したのか? という課題の提起もあった。国がお金を出して、ルールを引き、モデルを作るといふ中央集権型の政策で、より一層都市部への集中が進んだのではないかと。そして、行政任せになり、地域が衰退したのではないかと。逆に世界に目を向けても取り巻く環境の変化の流れでグローバル化が進む今日において、そこに住む地域の人、企業等が北部の視点で「小規模なつながり、分散型のコミュニティ・地域づくり、ローカルに目を向けていく」立ち位置も大切ではないかということであった。

後半は、もう一つの人口論として「定住人口でもなく、観光にきた交流人口でもない、地域と多様に関わる者」が注目され、関係人口の創出が地域経済の課題を解決することのキッカケになるという北部各市町村の事例紹介があった。裾野拡大型の事例として北部の住民基本台帳人口は28万人だが、本籍地人口は40万人おり、ふるさとを仕事で離れたが何かしら地元との関わりを持ちたいという人が多いという。学生時代に地域のことを知らずに進学や就職で都市部へ出ていく若者が多く、Uターンで就職したところは公務員又は銀行を上げる学生が多く、中小企業者が中高生へのアプローチすることで早い段階で優秀な人材確保や北部の地域経済圏が広がる可能性があるとの指摘であった。

最後に、コロナで「人とのつながり」の重要性を知ったからこそ、今後ますます「リアル(対面)での人の繋がり」の重要度が増す。孤立という病を地域のつながり、企業のつながりで治す方法があり、企業の地域創生が誰かの薬になる。人口=(多様な地域人材による)人生の数を増やしていく中で、北部地域の創生をつながりで考えることが大切だと締めくくられた。

改めて日本の高度経済成長を支えた日本型共同体の原点でもある「つながり」を大切に中小企業組合のあり方がこれからの時代にも有効に働く処方箋であるということと考えさせられた内容であった。

第二部の交流懇親会は、本会阪口雄次会長が開宴の挨拶を行った後、ご来賓を代表して西脇隆俊京都府知事及び大橋一夫福知山市長から祝辞を頂戴した。その後、福知山商工会議所 塩見和之会頭のご発声により乾杯、終始和やかな雰囲気の中で歓談交流が行われ、本会早瀬隆之副会長による中締め挨拶が行われ、盛会裏に代表者会議を閉会した。



開会挨拶(山下副会長)



会場風景



講師(杉岡秀紀氏)



懇親会挨拶(阪口会長)



来賓祝辞(西脇京都府知事)



来賓祝辞(大橋福知山市長)



乾杯(塩見福知山商工会議所会頭)



中締め挨拶(早瀬副会長)

あいさつは みんなにおくる 心のエール 心の中は ポッカポカ

京都人権啓発推進会議/京都府中小企業団体中央会

前号までは、新型コロナウイルス感染症の流行や原油・原材料価格の高騰等の外部環境の下で、業況や倒産・資金繰り、雇用環境を始めとする中小企業・小規模事業者の動向について紹介しました。本号では、小規模事業者が感染症の流行後に取り組んだ事業見直しの取組や、地域課題解決に向けた取組について、さらに、中小企業・小規模事業者における共通基盤としてのデジタル化や取引適正化、伴走支援についてご紹介いたします。

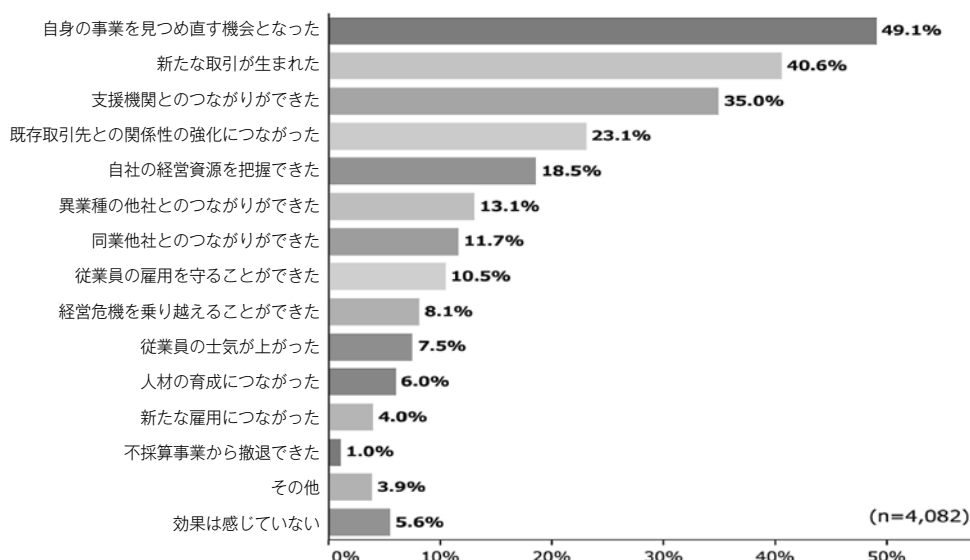
第2部 新たな時代へ向けた事業見直しと地域内連携

●小規模事業者の事業見直し

小規模事業者が感染症流行後に取り組んだ事業の見直しについて、現下の売上回復・維持・向上のための取組と、中長期を見据えて持続的な成長を目指す取組に分けて分析した。

第1節では、多くの小規模事業者が事業見直しに取り組んでおり、複合的に取組を進めた小規模事業者も一定数存在することなどがわかった。また、事業見直しに取り組んだ小規模事業者においては、事業計画書の作成や支援機関の活用が今後の売上げへの期待感につながっていた。

事業見直しの実施による経営への強化



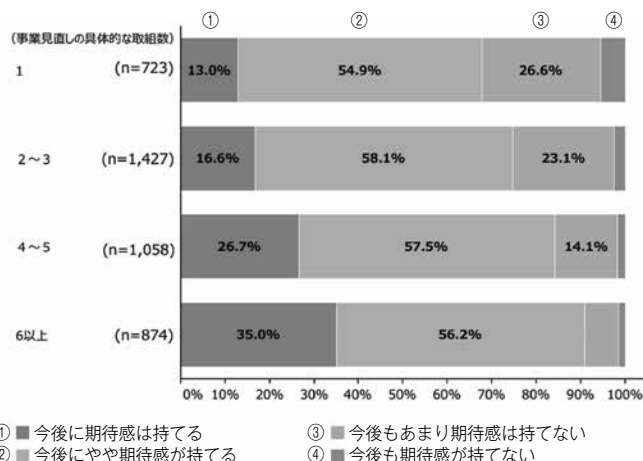
資料：三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング(株)「小規模事業者の地域での連携や課題解決への取組に関する調査」

(注) 1. 複数回答のため、合計は必ずしも100%とまらない。

2. 最も力を入れた事業見直しの取組の実施による経営への効果を聞いたものである。

3. 感染症による売上げへの影響に「ある程度マイナスの影響を受けた」、「大きくマイナスの影響を受けた」と回答した小規模事業者を集計している。

事業見直しの具体的な取組数別に見た、今後の売上げへの期待度



資料：三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング(株)「小規模事業者の地域での連携や課題解決への取組に関する調査」

(注) 1. 最も力を入れた事業見直しの取組における今後の売上げへの期待度を聞いたものである。

2. 感染症による売上げへの影響に「ある程度マイナスの影響を受けた」、「大きくマイナスの影響を受けた」と回答した小規模事業者を集計している。

第2節では、今後の市場動向を見据えて中長期的な視点で取り組む小規模事業者の事業見直しについて確認し、小規模事業者が事業見直しによって持続的な成長を目指す上では、事業者間連携が重要な要素の一つであり、連携による新たな取引の創出や取引先との関係強化といった経営上の効果がわかった。

第3節では、事業見直しを実施した約7割の小規模事業者が支援機関を活用しており、その大半が支援による成果を実感していることがわかった。また、小規模事業者は、個別の経営課題の解決や支援策の提案などよりも、支援の際における話・相談のしやすさといった対話を重視しており、支援機関の活用による成果を更に高めていくためにも、支援機関においては、まずは小規模事業者が気軽に話すことができる環境を整えた上で、小規模事業者が抱える個別具体の支援を行っていくことが期待される。

●地域課題の解決と地域内連携

小規模事業者による地域課題解決への取組状況や他者との連携状況について分析した。

第1節では、小規模事業者が取り組んでいる地域課題に関する具体的内容やその取組の自社内における位置付け、利益状況を概観した。地域課題解決への取組を進める事業者において、現状では、事業として取り組んでいる小規模事業者は多く存在しない一方で、地域貢献の一環として取り組んでいる小規模事業者に比べ、自社全体の利益状況を黒字と回答する割合が高いことが分かった。また、実際に自社の中心事業として地域課題解決への取組を行い、収益性を確保しているモデルが存在した。

第2節では、小規模事業者が地域課題解決に向けた取組を行う際の他の事業者との連携状況や効率的な連携の進め方について分析した。自地域内の事業者との連携を既に行っている、あるいは検討している小規模事業者は半数を超えていることが分かった。さらには、これまで自地域には存在していなかった仕組みやインフラの提供を行うことで、地域課題解決に向けた連携をより効率的に進めている事業者も存在していた。あわせて、支援機関も自身の持つネットワークやノウハウを活用して、小規模事業者の連携を支援していることが明らかとなった。地域の持続的な発展に向けては、小規模事業者が単独で活動するのではなく、多様な主体と連携していくことが必要といえよう。

●共通基盤としての取引適正化とデジタル化、経営力再構築伴走支援

共通基盤としての取引適正化とデジタル化、経営力再構築伴走支援について分析した。

第1節では、新型コロナウイルス感染症流行後の企業間取引の状況について分析した。4割程度の受注側事業者において、2020年と比べると受注量が減少している一方で、増加している企業も3割程度存在しており受注が回復傾向にある企業も一定数存在することが確認された。一方で、原材料価格やエネルギーコストなどのコスト変動に対する価格転嫁が、依然として企業間取引における課題となっている様子が確認された。適正な価格転嫁に向けては、受注側事業者が取引における交渉力を高めるとともに、発注側事業者においては、受注側事業者が価格交渉しやすい環境を提供するなどの取組が期待される。

第2節では、小規模事業者におけるデジタル化やデータ利活用の状況を分析した。中規模企業と比較し、優先順位や取組状況、データ・情報資産の管理状況に差が見られるものの、一定数の企業がデジタル化やデータ利活用に着手していることが分かった。利活用のためのデータクレンジングや見える化の実施状況については、中規模企業と比べて遜色ない程度に取り組まれていることが分かった。また、データを利活用している小規模事業者においては、より効果を実感している割合が高いことが分かった。

第3節では、支援機関によるサポートの現状と事業者の自己変革に向けた課題、今後の中小企業支援の在り方について分析した。今後、ポストコロナ時代を迎えるに当たって、中小企業、小規模事業者においても「経営力そのもの」が大きく問われており、経営者自らが、環境変化を踏まえて経営課題を冷静に見極め、迅速果敢に対応・挑戦する「自己変革力」が求められており、経営者自身が自己変革を進めるに当たっては、経営課題の設定段階から、支援機関との対話による伴走支援を受けることが重要であると考えられる。

2022年版「小規模企業白書」の全文は、中小企業庁のホームページでご覧になれます。

<https://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/2022/PDF/shokibo.html>

<お問い合わせ> 中小企業庁事業環境部調査室

電話：03-3501-1764 FAX：03-3501-1207



京都ブランド・新分野開拓事業の活用事例

本会助成事業である“京都ブランド・新分野開拓事業”を令和3年度に活用し、組合主導でのネットマーケティング事業に取り組まれた組合の事業概要を紹介します。



70年目のリボーンプロジェクト（2年目） 「オンライン京ものEXPO」開催システムの試作

京都名産品協同組合

京都の名産品の製造・販売に携わる幅広い事業者112社（申請時）を組織している「京都名産品協同組合」（代表理事・田中良明）は、令和2年度に創立70周年を迎えたため、「70年目のリボーンプロジェクト」と題して、2ケ年に亘り本事業を活用した。

コロナ禍において大きく変わってしまった観光産業では、かねてより課題であった「ネット社会への対応」というテーマが喫緊の課題として急浮上している状況と考えられ、そういった中で、組合全体、業界全体として、このテーマに真剣に取り組むことが業界の新たな飛躍を遂げることができ一つのチャンスにもなり得ると考え、初年度は、「ネットを活用した京都名産品協同組合の活性化に向けた将来ビジョンの策定」をテーマとして本事業に取り組んだ。

2年目となる今年度は、策定した将来ビジョンを受け、組合主導でのネットマーケティング事業を行うため、「オンライン京ものEXPO」開催システムを試作した。

本システムを活用することで、ネット上での博覧会形式で「オンライン京ものEXPO」を実施することができた。その結果、組合員各社の商品の認知度を高めるとともに、WEB上で様々な消費者の意見を聴取するアンケートを行うことにより、組合員のものづくりに寄与することができた。

WEBプレスリリースやプロモーション動画の作成など、ネットでの広報にも力を入れ、開催期間の令和3年12月16日から令和4年1月15日の1ヶ月間に、延べ6,000人を超える来場者があり、2,200件以上のアンケートを得ることができた。

本事業で開発したシステムを活用し、今後も「オンライン京ものEXPO」を開催していき、組合主導で組合員の商品の情報発信や商品開発に活かせる消費者の声を集めていく。

令和4年度中小企業組合検定 受験対策講習会のご案内

主催 京都府中小企業組合士協会

令和4年12月4日（日）に実施される中小企業組合検定試験を受験される方、今後の受験をご検討されている方を対象に、受験対策講習会を開催しますので、ぜひご参加ください。

【組合会計】※必ず電卓をご持参ください。

日時 令和4年10月20日（木）18:00～19:30
場所 京都経済センター3階 3-G会議室
（京都市下京区四条通室町東入）
講師 京都府中小企業団体中央会
企画調整課 主事 酒部 隆文

【組合制度・運営講習会】

日時 令和4年10月27日（木）18:00～19:30
場所 京都経済センター3階 3-G会議室
（京都市下京区四条通室町東入）
講師 京都府中小企業団体中央会
連携支援課 主事 中尾 重太

参加申込 10月11日（火）締め切り。本会ホームページ「中央会からのお知らせ」より参加申込書をダウンロードし、必要事項をご記入のうえFAXにてお申し込みください。（参加料 無料）

お問合せ 京都府中小企業組合士協会 事務局 ☎ 075-708-3701 FAX 075-708-3725

チャレンジ！
検定試験を受けて
組合士になろう!!

令和4年度 中小企業組合 検定試験 12月4日(日)

1組合1組合士・組合のあしたを拓く組合士

**受験資格**

特になし(ただし、組合士として認定されるには組合等での3年以上の実務経験が必要です。)

試験科目

組合会計 組合制度 組合運営

試験日

令和4年12月4日(日)

試験地

札幌・青森・仙台・秋田・郡山・水戸・東京・長野・静岡・名古屋・
大阪・松江・広島・山口・高松・福岡・大分・宮崎・那覇

願書受付期間

令和4年9月1日(木)～10月14日(金)

受験料(税込)

6,600円

※一部科目免除者については、5,500円(二科目受験)、
4,400円(一科目受験)。

お問い合わせ先

お申し込み方法など詳しいことは、
最寄りの都道府県中小企業団体中央会または
全国中小企業団体中央会(TEL.03-3523-4907)
までお問い合わせ下さい。

組合士

検索

主催／ 全国中小企業団体中央会

後援／中小企業庁

協力／都道府県中小企業団体中央会

京都青年中央会 京都市長表敬訪問

京都青年中央会は7月8日(金)に京都市長表敬訪問を行い、山添会長をはじめ9名の役員が京都市役所を訪れた。京都市からは門川大作市長、石田洋也産業・文化融合戦略監兼産業観光局長、松下重志地域イノベーション推進室長等が出席され、京都市幹部との懇談の機会をいただいた。

懇談の間では、本年度より山添新会長のもと、新体制での新たなスタートを切ったことを伝え、新役員の紹介を行うとともに、今期は組織力の増強と会員青年部との連携強化を念頭に活動していくことが伝えられた。

また、今年度の開催予定事業について説明し、とりわけ37回目となる京都市長杯争奪ボウリング大会(10/15(土)開催予定)へのご臨席をお願いした。

門川市長からは、このコロナ禍を乗り越えるためには消防団等のような地域の活動も重要であり、地域の力、若い力、女性の力が不可欠であることから、京都青年中央会の斬新なアイデアや取組みに期待したい旨が述べられ、終始和やかな雰囲気での懇談が行われた。



一般社団法人京都府食品産業協会

第25回京の味めぐり・技くらべ展を開催!!

京の味めぐり・技くらべ展実行委員会では、京都の歴史と伝統に培われた食品・工芸品などの地場産品、農林水産加工品等、京都産品の普及・啓発と販路の拡大を図り、京都府における地場産業の振興・発展を目的に、令和4年8月10日から15日の6日間、「第25回 京の味めぐり・技くらべ展」を開催した。

一昨年までは「大丸京都店」で開催し、昨年は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったが、今回は感染予防対策を徹底した上で、初めて「ジェイアール京都伊勢丹」で開催する運びとなった。

会場では京都府内各地の名店による地場産品の実演・販売の他、京都のおすすめスポットを紹介するとともに府内観光PRを実施され、恒例の府内の旅館ペア宿泊券等が当たる抽選会も行われた。京都駅ビルということもあり、帰省帰りのお客様や観光客の姿が見られ、商品をPRする良い機会となった。



味めぐり技くらべ展の風景



観光コーナー

アイシーエル 人材育成研修

貸し研修室、
人材派遣も
承ります

マナー研修

管理職研修

パソコン研修

組合様主催の研修企画など
お気軽にお問い合わせください♪

中央会特別会員

ICL

株式会社アイシーエル

☎075-708-7253

URL <http://www.icl-web.co.jp> E-mail training@icl-web.co.jp

〒600-8413 京都市下京区烏丸通仏光寺下ル大政所町 680-1 第八長谷ビル 10F

詳細・お申し込みは Web サイトへ

アイシーエル 検索

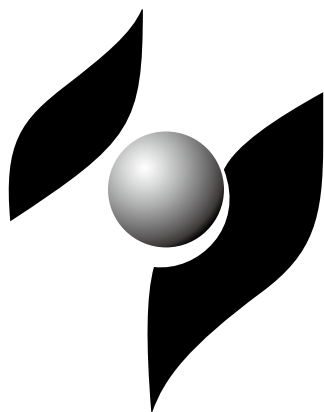
営業時間 9時～18時(土・日・祝日は休業)

■先行き見通せず不安感一層強まる

	業界景況 天気図	概 況	
全 体	6月 →7月  	新型コロナウイルス流行の「第7波」は、活気が戻りつつあった観光関連産業、飲食業を中心に暗い影を落としている。依然として続く原油・原材料・電力料金等の高騰、部品の調達難に加え、新型コロナウイルス感染者及び濃厚接触者の急増に伴う人手不足が生じている業界もある。先行きが見通せない中、不安感は一層強まっている。	
製造業	繊維工業  	染色整理業では、振袖には動きがあるが、一般呉服の動きは弱い。円安による白生地高騰に加え、原油高に伴う染色加工の値上げが進んでいる。さらに、新型コロナウイルス流行の「第7波」の影響もありコスト高よりも需要の拡大が見通せず、また職人等の高齢化も進み先行き不安が高まっている。	
	出版・印刷  	新型コロナウイルス感染症やウクライナ情勢の影響により、売上の減少、資機材の調達困難など厳しい経営環境が続いている。また、原材料価格の高騰にも苦慮している。	
	6月  ↓ 7月 	鉄鋼・金属  	前月に続き景況は全体的に下降気味である。特に、自動車関連はメーカーによって差はあるが、長引く半導体不足や原材料不足による大幅な生産調整（ラインストップや一時工場閉鎖など）の影響で、受注はあるが生産できない、売上が伸びない、と言った状況が続いている。
	一般機械等  	半導体関連を中心に受注が増加しているが、部材調達難を背景に客先要求納期対応に苦慮している。人員の確保に注力しているが採用難の状況は継続しており、有効求人倍率の上昇傾向のなか中小企業における状況の更なる悪化が懸念される。	
	その他製造業  	パン・菓子製造業では、価格の改定はなされたが思いより低く抑えられ、販売個数が減り収益状況は悪くなった。また、価格改定に最長で2ヶ月の遅れがあった。木材・木製品製造業では、大幅な価格上昇から今後値下がりする可能性があり、一部で買い控えが見られるために荷動きが悪い。ただ、輸入材は円安の進行から今後ますます値上がりする可能性があり、各社対応が分かれている。	
非製造業	卸 売  	繊維・衣服等卸売業では、新型コロナウイルスによる制限の緩和が進み、前月に続き売上は好調に推移し、コロナ禍前の状態に近づきつつある。一方で、円安や燃料高の影響により製造コストが高止まりしており、市場の好況に水を差す要素となっている。	
	小 売  	食肉小売業では、7月前半はスーパーマーケットを始め食肉小売店の売上は振るわず、7月売上のトータルでは前年同月比不変となった。食肉のネット販売も巣ごもり需要が無くなり落ち込んだ。燃料小売業では、新型コロナウイルス感染者の急拡大により、濃厚接触者の増加で人手不足が生じている。	
	商店街  	7月前半から人通りも増え、各店もそれぞれ売上が少し増えたように思う。しかしながら、新型コロナウイルス感染者が急激に増えつつあり、7月後半にはまた人出も徐々に減り平日は閑散とした人通りとなってきた。	
	6月  ↓ 7月 	サービス  	自動車整備業では、部品など一部の供給の遅れが発生し関係者を悩ませており、整備各社では早期の部品生産の正常化を望む声が大きくなっている。旅館・ホテル業では、京都市内に関しては、月初は以前より良かったものの、新型コロナウイルス新規感染者数が急増するにつれて新規予約が少なくなり、キャンセル通知が多くなった。
	建 設  	一般土木建築業では、物価高騰の影響を受けているが、契約変更による増額は困難であり利益を圧縮して対応しているのが現状である。職別工事業では、資材高騰や雇用者給与等支給額上昇により更なる収益確保は難しい。価格転嫁の想定を超えており収益は更に悪化をたどっている。	
	運 輸  	道路旅客運送業では、3年ぶりのリアル祇園祭で7月の京都は大いに賑わった。タクシー売上も全体的な稼働は回復しないものの、一人一人の乗務員売上は向上した。しかしながら、祇園祭の後祭以降、新型コロナウイルスの感染拡大とともに売上は減少、乗務員も家庭内感染のあおりを受け稼働が落ち込んできた。	

 快晴 DI値 40以上	 晴れ 20~40未満	 くもり 20未満~△20未満	 小雨 △20~△40未満	 雨 △40以上
---	--	--	--	---

※DIとは、Diffusion Index（ディフュージョン・インデックス）の略で、好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値です。



人を思う。未来を思う。

商工中金

新型定期預金

マイハーベスト

有利な金利設定

通常の債券・定期預金（固定金利）より 高めの金利（当金庫内比較）
をご提供します。ただし、原則として満期日前の解約はできません。

1年、2年、3年から期間が選べる

将来の計画に合わせて好きな期間を選べます。

- お預け入れは、50万円以上 1円単位です。
- お預け入れは、個人のお客さまに限らせていただきます。
- 詳しくは店頭のチラシまたは ホームページをご覧ください。

商工中金 京都支店

〒600-8421 京都市下京区綾小路通烏丸西入童侍者町 159-1

TEL 075-361-1120

<http://www.shokochukin.co.jp/>



人を思う。未来を思う。

商工中金

令和4年

秋の全国交通安全運動 実施要綱

運動の目的

広く府民に交通安全思想の普及・浸透を図り、交通ルールの遵守と交通マナーの実践を習慣付けるとともに、府民による道路交通環境の改善に向けた取組を推進することにより、交通事故防止の徹底を図る。

運動スローガン

『 ゆずりあう 気持ちで深まる 京の秋 』

実施期間

令和4年9月21日（水）～9月30日（金）までの10日間
交通事故死ゼロを目指す日 9月30日（金）

運動重点

- ◇ 子供と高齢者を始めとする歩行者の安全確保
- ◇ 夕暮れ時と夜間の歩行者事故等の防止及び飲酒運転の根絶
- ◇ 自転車の交通ルール遵守の徹底



京都府交通対策協議会



なが——い、おつきあい。

事業資金ニーズに応える豊富なメニュー

ビジネスパートナーをご紹介

資金調達

ビジネスマッチング

企業の資本政策・成長戦略をサポート

海外でのビジネスをサポート

事業承継・M&A

貿易・海外取引



京都銀行はさまざまな
シーンで皆様を応援します！

◀詳しくはこちらをご覧ください

飾らない銀行

京都銀行

月刊中小企業連携組織活性化情報 協同

9/2022 令和4年9月10日発行 通巻909号

●編集・発行●

京都府中小企業団体中央会

〒600-8009 京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町78番地 京都経済センター3階

☎ 075-708-3701 FAX 075-708-3725

URL <http://www.chuokai-kyoto.or.jp> E-Mail web@chuokai-kyoto.or.jp



表紙タイトル「協同」背景色は、京都府印刷(工)が京にゆかりのある名前を付した12色を創作したうちの「紫式部色」です。